

『家族に関する優先順位』 '20/10/11(臨時会員総会) 聖書箇所:マルコの福音書 3章 31-35節(新約 p.70)

今日、私たちは、とても大切なテーマについて学んでいきたいと思います。それは、私たちクリスチャンが決して避けることのできない、私たちの家族に関する問題です。天の神様は私たちに、「2つの家族」を与えてくださいました。それは、①私たちが生まれながらに属している肉の家族と、②もう1つは、信仰を持った後に与えられる信仰の家族(教会)というものです。それらの、どちらともが私たちににとっては大切なもので…、両方共、掛け替えのないものであります。

しかし、実際問題として、私たちの体は1つしかないわけで…、ある時には、2つの家族の内、どちらを優先すべきか？というようなことについて、皆さんも悩まれた経験があるのではないのでしょうか？あるいは、どのようにして、その2つの家族とのバランスを保っていきべきか？というような、ある種のジレンマ…、つまりは、両方の板挟みになってしまったような経験をお持ちではないのでしょうか？

命題: 家族に関する、聖書的な優先順位について…？

今日のみことばは、そういったような…、神様が与えてくださった2つの家族に関する、イエス様の模範、言わば、アドバイスであります。イエス様は、神から遣わされた救い主として、この地上に生まれてきてくださいました。つまり、イエス様にも、生まれながらの家族(父？はヨセフ、母はマリヤ、他に、少なくとも4人の弟や妹たち)が居たわけでありました。そのような中で、イエス様は、何をどう優先されたのでしょうか？また、聖書のみことばは、そういったことについて、どう教えてくれているのでしょうか？今日は、神様が与えてくださった家族に関する聖書的な優先順位について考えていきたいと思ひます。今日は、この後、臨時の会員総会がありますので、かなり短くなってしまいますが、どうぞ、今日のみことばである、マルコ 3:31-35 をお聞きくださいますでしょうか。初めに、こちらで読ませていただきます。

31 さて、イエスの母と兄弟たちが来て、外に立っていて、人をやり、イエスを呼ばせた。

32 大ぜいの人がイエスを囲んですわっていたが、「ご覧なさい。あなたのお母さんと兄弟たちが、外であなをたずねています」と言った。

33 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母とはだれのことですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」

34 そして、自分の回りにすわっている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。」

35 神のみこころを行う人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

I・みことばに聞き従おうとする、「教会」の仲間たち！

今読んだみことばには、イエス様を取り囲む、①生まれながらの家族と、他に、もう1つのグループが登場しておりました。それは、②イエス様と同じ生き方をしようとする者たち…、**言い換えるなら、聖書のみことばに聞き従おうとする、「教会」の仲間たちであります。**そのような者たちのことを、イエス様は、「自分にとっての家族である！」という趣旨のことを話しておられます。まずは、そういったことを、皆さんとご一緒に確認していきたいと思ひます。

●イエス様の 身内 がやって来た理由

さて、今日のみことばが描いてくれている、この時、イエス様の一行は、ガリラヤ地方で伝道をしている真っ最中でありました。私たちが先週に学んだみことばによりますと、この時にも、やはり、イエス様の周り

には、『大ぜいの人が集まって来た…』ために、せっかく、イエス様の母と兄弟たちがやって来たのに、イエス様のそばへ近寄れなかった、ということが分かります。今日のみことばで、『母』とあるのは、皆さんもよくご存じて、イエス様のことを生んだ、あのマリヤであります。そして、『兄弟たち…』というのは、イエス様の弟や妹たちで、例えば、マルコ 6:3 などを見てみますと、イエス様には、少なくとも4人の弟と、妹たちが居たことが分かります。

でも、そもそも…、この時、イエス様の家族は、どうして、イエス様のもとへと来たのでしょうか？⇒それに関して、先週、私たちは、その理由と言うか、きっかけとなるみことばを見ました。今日のみことばの少し前、マルコ 3:20-21 には、こうあります。『20 イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。 21 イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。『気が狂ったのだ』と言う人たちがいたからである。』⇒皆さん、覚えてくださっていますよね？実は、この時、ガリラヤの者たちは、イエス様のことを、「あいつは気が狂っているぞ！早く、あいつを何とかしろ！」などと言って、恐らくは、イエス様の家族に、イエス様のことを迎えに行くよう、進言する者が居たようなのです。

しかし、そういったことは無理のないことだったのかも知れません。…と言いますのも、彼らは、イエス様のことを、ひょっとしたら、その幼少期の頃から知っていたからです。先週の礼拝でも学んだように、実は、この時、イエス様の一行が居たカペナウムという町は、イエス様の育ったナザレという町から40-50kmの場所でありました。…というわけで、ガリラヤの一部の者たちは、あのイエス様が木工であったヨセフに倣って、自らも木工として家族を支えていたことや、イエス様が宗教的に、そう特別な教育を受けていないことなどを知っていたのでしょうか。恐らくは…、そういったような、ご近所のお節介さんたちが、あることないことをオーバーに、イエス様の身内に対して、何か進言したのだと思われます。だから、イエス様の母マリヤと兄弟たちが、イエス様のことを案じて、イエス様を連れ戻しに来たと言うか…、その様子を見に来たということだったと思われまふ。

皆さん、覚えてくださっています？…イエス様は、自分が幼少期を過ごされたナザレに行った時、こんな風なことを言って、嘆いておられます。ルカ 4:24、『預言者はだれでも、自分の郷里では歓迎されません。』⇒このように、ガリラヤやナザレの者たちは、あまりにも、イエス様の身近に居たために、そういったことが、イエス様の神性(=イエス様が、真の神であられるということ)を信じるのが難しかったのかも知れません。

● 同じ 信仰を持った共通点

そういったことをすべてご存じであった、イエス様のおっしゃられたことが、このお言葉です、『神のみこころを行う人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。』⇒イエス様のこういったお言葉は、ひょっとしたら、信仰をお持ちでない方には、なかなか、分かってもらえない表現かも知れません。でも、信仰というのは、それこそ、私たちの生きていく目的も…、私たちの考え方も…、感じ方も、価値観も、目標も、夢も、全て変えてしまいます…。だって、この聖書が教えてくれている信仰とは、私たちが生きていく上での、人生のちょっとしたトッピングのようなものではなく…、私たちの人生を、その根幹から変えてしまうほどの大切なものであるからなのです。神様が、そのように、私たちや皆さんのことを変えてくださるのです！

先週、私たちは、マルコ 3:27 のみことばから、かつての私たちは皆、悪魔の陣営にいて…、まるで、悪魔の奴隷のような存在であったということを知りました。しかし、そんな中から、イエス様が救い出してくださいました！…しかも、ご自分のいのちを犠牲にして…(十字架と復活)。そのイエス様を信じて救われた私たちは皆、神様によって変えられて、同じ目標を持ち、同じような価値観を持っています。同じ信仰を持って、同じ方向を向いて歩んでいる者同士です。これは、恐らく、いくら家族であっても、信仰を持ってくださっていなかったら、なかなか、分かり得ない事実であります。でも、信仰を持って救われた私たちは皆、その同じような価値観を持ち、同じ目的を持って生きている主にある兄弟姉妹…、真の神様

を信じた、1つの群れ…、1つの家族なのです。

だから、使徒ヨハネは、Iヨハネで、このように教えます。『10 そのことによつて、神の子とも悪魔の子ともとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。… 14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。』(Iヨハネ 3:10,14)って…。皆さん、聞いてくださいました？このように、同じイエス様によって救われた兄弟姉妹を愛するかどうかで、皆さんが、本当に救われているかどうか明らかになる！そう、聖書のみことばは教えてくれているのです。ですから、本当に皆さんが救われているのなら、あなたは、教会の群れ…、教会の家族を愛する愛を必ず持っているはずなのです…。

II・生まれながらの、**家族**！

次に、私たちが考えなければならないのは、**私たちに最初から与えられている、生まれながらの“家族”**に関する問題であります。私たちは、生まれながらの家族について、どのように考えるべきなのでしょう？また、聖書のみことばは、その生まれながらの家族について、どう教えてくれているでしょう？

●家族よりも、**教会**を優先すべき？

時々、教会内にあつては、「家族のことよりも、教会のことを優先すべきである！」というようなことが教えられたり…、ささやかれたりすることがあります。でも、本当に、そういったことを、イエス様が…、あるいは、聖書のみことばが教えているのでしょうか？確かに、今日のみことば“だけ”を見てみますと、イエス様は、さも、血の繋がった家族よりも、信仰を同じくする仲間の方を優先されたように見えなくもありません。

しかし、旧約聖書の十戒には、両親について、何と命じられておりました？⇒**出エジプト記 20:12**、『**あなたの父と母を敬え。**(あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。)]⇒このことに関しては、私たちが以前学びましたように、十戒の第5番目に出てくる戒めであつて…、それまでの4番目の教えは神様との問題であつて…、私たち人間関係において、1番最初に教えられてある命令であります。それ故に、私たちクリスチャンは、私たちの両親を敬うべきであり…、決して、軽く扱ったり…、ないがしろにはしてはいけないはずなのです。

だから、パウロもまた、**エペソ 6:1-3**で、**同じことを命じてくれています。『1 子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです。2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする」という約束です。』**⇒このように、旧約聖書だけでなく…、新約聖書にあつても、両親に対する教えというものは全く変わつてはおりません。…と言うのは、真の神様は、決して変わることはない御方であり…、その神様のみこころもまた、決して、コロコロコロコロ、変わるものではないからです。

●家庭が置かれるべき **優先順位**

どうぞ、皆さん。次に、Iテモテ 3章に書かれてある、監督の条件をご覧ください。ここには、教会を治めるべき監督たちの資質について教えられてあります。その、Iテモテ 3:2-5に、『2 ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、3 酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、4 **自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。5 ——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう——**』⇒ここでは、教会のリーダーたる者は、自分の家庭を、しっかりと治められていないといけな

ということが教えられてあります。まずは、家庭なのです！…そして、その次に、教会なのです。

もう1つ、Iペテロ 3:1-2では、『1 **同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たゞい、みことばに従わない夫であつても、妻の無言のふるまいによつて、神のものとなるようになるためです。2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。』**⇒ここでも、先程と同じ順番が教えられてあるように思われます。まずは、家族を尊重しなさい！家庭を大事にしなさい！それこそが、神様の喜ばれることであつて…、そのことを通して、神様のみこころがなされていくのではないのでしょうか？

もう皆さんも、私が何を言いたいのか、十分気付いてくださっていると思います…。聖書のみことばは、私たちクリスチャンが、信仰の故に、自分たちの両親をはじめ…、家族を犠牲にしたり…、粗末にしたりすべきことを教えてはいません！そのことを、今日のメッセージのテーマである優先順位で言うならば、私たちクリスチャンが優先すべきなのは、教会よりも…、むしろ、生まれながらの家族であります！だから、Iテモテ 5:8では、『**もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであつて、不信者よりも悪いのです。**』というようなことが教えられてあるのです。信仰を持って救われているのなら、その人は自分に与えられた肉の家族を愛するはずだ！顧みるはずだ！ということ、はっきりと聖書のみことばは教えてくれています。

III・私たちの、父なる**神様**！

そして、今日、**私たちが最後に見ていきたいことは、私たちの父なる“神様”**に関すること…、その**優先順位**です。もう、このことに関しては、改めて言う必要もないと思いますが…、簡単に確認だけしておきたいと思つています。もう皆さんも気付いてくださっていると思いますが、今日の週報に書かれてあります、メッセージのアウトラインは、上から順番に優先順位が下がっているのではなく…、下の方が、優先順位としてはより高くなつています。

今日のみことばである、マルコ 3章に戻ってくださいますと…、せつかく、イエス様の母マリヤや兄弟たちが来たのに関わらず…、イエス様がそこに出て、応対しようとしなかったのは、その時、イエス様が、神の御用をなさつていたからだと思われま

す。イエス様は、父なる神様のことを1番に優先されていたがために、みことばを教えるという務めを、おろそかにすることはされなかったのです。**皆さん…、つい先週に引用したマタイ 10章で、イエス様が教えてくださった、こんなみことばを覚えてくださっています？マタイ 10:34-39、『34 わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思つてはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。35 **なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たから**です。36 さらに、家族の者がその人の敵となります。37 **わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。38 自分の十字架を負つてわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。39 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失ひ、わたしのために自分のいのちを失つた者は、それを自分のものとします。』****

⇒こんな風にイエス様は教えてくださりました…。最後 39節で、**イエス様が言われた、『自分のいのちを自分のものとした者はそれを失ひ、わたしのために自分のいのちを失つた者は、それを自分のものとします…』**というのは、「永遠のいのち」、つまり、救ひのことでなくて何でしょう？

いえ、このみことばだけではありません。この聖書全体や、また、イエス様は、こう教えています。ルカ 10:25-28、『25 **すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生、何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」**26 イエスは言われた。「律法には、

何と書いてありますか。あなたはどの様に読んでいますか。」27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。」28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。』」

⇒まあ、このイエス様のお言葉には解説が必要で…、「律法を実行できたら、その行ないによって、あなたは救われますよ！」ということ、イエス様が教えておられるのではありません。しかし、「そのように、神を愛すること、また、あなたの隣人を愛することが救いと関係しているのですよ！まあ、簡単に言うと、あなたが救われたら、そのように変えられるのですよ！」ということ、このみことばは教えてくれているのです。

また、これだけではありません。聖書には、多くの個所で、私たちは、神である主を1番に愛しなさい！ということが教えられています。だから、本当に救われた者たちは皆、真の神様を愛し、その神様に従おうとするからこそ、自分たちの家族を…、また、教会の兄弟姉妹を愛そうとするのです。…でも、知っていますか？ 今日、多くのキリスト教会では、「まず、あなた自身を愛しなさい！ そうしないと、どうやって、神様のことを…、また、あなたの隣人を愛せますか！」と教える傾向にあるのです。…でも、果たして、聖書のみことばは、そういったようなことを教えているのでしょうか？

<励ましの言葉>

悲しいことに、今、多くのキリスト教会では、「あなたには価値がある！ 価値があるから救われた…」というようなメッセージを伝える傾向にあります。私が悲しいのは、今、多くのクリスチャンたちの証しが、「神様は、こんな私を高価で尊い！ と言ってくれました。だから、私は、この神様を信じたんです！」というような…、聖書の教えとは“正反対の”…、まるで、“自分自身のため”に、イエス様を信じたような印象を受けるからです。

イエス様が教えてくださった、本当の信仰は、まず、自分自身の罪を認め…、そして、自分の愚かさや、こんな自分が、その罪のゆえに滅ぼされて当然の存在であることを認めて、そして、自分が持っていた様々な欲や価値観を捨ててしまうこと…、つまり、自分を殺してしまうことではなかったでしょうか？…そして、その上で、救い主なるイエス様を信じることはなかったでしょうか？…だから、イエス様は、「自分の十字架を負って、その上で、わたしについて来なさい！」ということをも命じられたのです。この「十字架を負う」というのは、当時の死刑囚のことをいうわけでしょう？…イエス様を信じるというのは、ある意味において、自分自身を殺すことです。…その上で、イエス様を信じ、イエス様に従っていくことです。違うのでしょうか？

どうか、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんには、この世の教会がどう教えてくれたか？ではなくて、聖書のみことばがどう語ってくれているか？あるいは、イエス様が、どういったメッセージを宣べ伝えられたか？ということに、皆さんの耳を傾けていただきたいとします。…そして、願わくは、そのイエス様の御声に聞き従っていただくことを、心からお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。